



教育委員コラム

発行元
弟子屈町教育委員会
教育長 小林 俊夫
職務代理 榎本 悦子
委員 菅原 誓之
委員 金井 秀明
委員 吉田 一徳



弟子屈町教育委員会
〒088-3292 北海道川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号 弟子屈町役場
電話:015-482-2945 HP:<http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

教育委員リレーコラム

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の取組について

教育長 小林 俊夫

「学校運営協議会」については、平成27年3月の「教育再生実行会議・第6次提言」を受け、同年12月に「本協議会の設置をさらに促進させるべき」を内容とする「中央教育審議会答申」が出された結果、平成29年3月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（略して「地教法」）の第47条の6が改正されました。この改正のポイントには6つあります。『一つ目は、従来の「学校運営協議会を設置することができる。」から「学校運営協議会を置くよう務めなければならない。」と改正されたことにより、設置が努力義務化されたこと。二つ目は、学校運営への必要な支援についても協議すること。三つ目は、協議会の委員に、学校運営に資する活動を行う者を追加したこと。四つ目に、教職員の任用に関する意見の範囲について、教育委員会規則で定めること。五つ目は、複数校で一つの協議会を設置することが可能になったこと。六つ目は、協議結果に関する情報を地域住民に積極的に提供することを努力義務化したこと。』となっています。



この「学校運営協議会」は、一般的には「コミュニティ・スクール」（略して「CS」）と呼ばれ、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な取り組みとされ、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって、特色ある学校づくりを進めていくことを目的としています。このことにより、にわか全国的に協議会の設置が各市町村教育委員会によって広がっていききました。

この「CS」の構成メンバーは、学校や地域によって異なりますが、基本的には保護者代表や地域住民代表等で構成され、主な機能として『一つ目は、学校長が作成する学校運営の「基本方針を承認」すること（必須）。二つ目は、「学校運営」について教育委員会又は学校長に「意見を述べる」ことができること（任意）。三つ目は、「教職員の任用に関して」、教育委員会規則に定める事項について教育委員会に「意見を述べる」ことができること（任意）。』の三つを持つこととなります。まさに、地域が学校運営に参画し、特色ある学校づくりが可能となったわけです。



弟子屈町教育委員会では、平成21年度と平成22年度の2年間にわたり川湯中学校が文部科学省から、「学校運営協議会の取組に関する調査研究」の指定を受け、その成果を文部科学省に報告したことがありましたが、教育委員会では平成29年度から川湯小学校と川湯中学校の2校が連携して一つの「CS」を設立する方針を固め、この間、町内校長会や両学校の教職員をはじめ、両学校の学校評価委員の皆さんを対象とした学習会等を開催し、今後、早い時期に保護者の皆さんを対象とした学習会の開催を通して「CS」の理解を深め合い、本年度内からスタートさせることとしています。

本町の小中学校はどちらかというと、大都市部に比べ「CS」に近い状態で推移しているので、大変取り組み易い町になっていると考えており、この「CS」は一つの学校でも設置が許されているので、今後、残りの小中学校でも取り組んでいく方向で考えております。

昨今、複雑化・多様化している学校現場の多くの課題等を解決し、子どもたちの教育環境を充実させるためには、学校関係者の範囲だけでは各種課題の解決を図ることが困難になってきたことから、地域住民等の協力を得て、地域総がかりで教育の実現を図っていくことが求められてきました。

現代的な「CS」制度の導入を通して、「開かれた学校」「地域が支える学校」の実現を図り、地域の皆さんと学校が手を携えながら子どもの健やかな成長と未来を担う人材の育成を目指すこととしています。これにより、教育委員会にとっては、更に良好な教育環境の積極的な整備が求められ、また、学校現場では子どもたちに寄り添いながら、常に質の高い教育の提供が求められていくものと考えます。



次回リレーコラムは吉田委員です。

教育あっちこっち情報



美留和小学校と玉川大学生との交流

教育委員 金井 秀明

2月末、玉大生10名が、野外体験教育プログラムで美留和晴耕塾にきました。全員が教員志望の学生です。演習の一つとして地域との交流があり、美留和小学校のご協力を得て児童との交流を持つことができました。午前中からの訪問で、給食も児童と一緒に食べ、午後は体育館でゲームや長縄跳びなどをして貴重な体験をさせていただきました。学生がとても感動したと報告してくれました。「弟子屈町が好きですか」との問いに、「大好き」との返事をしてくれたそうです。東京の学校で同じ質問をした時には、「えーと、わかんない」「普通」などの答えだったそうです。郷土を愛する心を育てている教育に大変感動していました。



第88回奥春別小学校卒業式

教育委員 菅原 誓之

3月23日に奥春別小学校の卒業式に参列させて頂きました。当日は3名の卒業生がそれぞれ進学する中学校の制服を身にまとい、入場前廊下に並んでいる時は「緊張する～」と3人で肩を並べていました。この日は卒業式と同時に修了証書授与式も行われ、一人一人登壇し校長先生より証書が手渡されました。式の後半には在校生からの「よびかけ」が行われ、6年間の思い出を各自大きな声で発表し、それに答えて3名からも在校生に対しての思いを呼びかけていました。その後各々が両親への感謝の言葉をのべ、しっかり成長した姿を見せてくれました。最後には全校児童で合唱の披露もしてくれました。



弟子屈中学校の卒業式に参列しました

職務代理 榎本 悦子

3月19日、弟子屈中学校の卒業式に参列しました。終始一貫、整然と厳かな式典でした。気の毒なことに数日前足を捻挫した生徒さんがいて、車椅子での参加となりました。卒業生は、入場・卒業証書授与・合唱・退場と様々な場面がありましたが、その時々皆で連携してこの生徒さんをサポートする姿は、生徒さん達の持っている力を見た思いでした。最後は卒業生、在校生の合唱がありましたが、普段から歌の好きな生徒さん達なのでカー杯弾けるような合唱でした。四月から様々な道に進む卒業生の皆さんのご多幸をお祈りします。



平成29年度弟子屈町スポーツ表彰授賞式

教育長 小林 俊夫

昭和46年度から始まったスポーツ表彰授賞式は、本年度で第32回目を迎え、この間、スポーツ賞34件・スポーツ功労賞44件・スポーツ奨励賞55件・特別賞3件の計136件の個人と団体が授賞されています。今回は、スポーツ奨励賞には、陸上競技で須崎理子さん、山崎美玖さん、濱岡凌平君、木名瀬周太君・水泳競技で菅野佑君と芝田鷹洸太郎君、バレーボール競技で弟子屈バレーボール少年団の皆さんが授賞。スポーツ特別賞には水泳競技の徳永雅大君とスピードスケート競技の野上彩さんが授賞されました。授賞者を代表して須藤理子さんは「私は部活でたくさんのお話を学びましたが、部活をやってきて良かったと思うことは、人との繋がりが出来たことです。いろんなところで出会った友達や先生は私の協力者でもあり、大切にしていきたいと思っていました」と話してくれました。心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。



昨年12月より教育委員になりました吉田一徳です

教育委員 吉田一徳

昨年12月より教育委員になりました吉田一徳です。なぜ今回私に白羽の矢が立ったのかわかりませんが、何事もチャレンジということで引き受けました。普段は農家のオッサンですが、たまに蝶ネクタイを締め川上シンフォニアで楽器演奏をしたり、各地の動物園や博物館などの施設を巡る趣味を持つ文化系脳みそです。そのなかで、ちょっとこれはいいなと思う事例がありますのでこのコラムでいつか紹介したいと考えています。まだまだ教育委員として未熟ですが、弟子屈の教育に貢献できるよう努力し、未来の弟子屈を作るであろう子供たちの成長の手助けになれば幸いです。



★★ 編集後記 ★★

昨年12月、前職務代理『小澤 重』氏が退任なされました。長きに渡りました教育委員という責務大変お疲れ様でした。また、新任委員としまして『吉田一徳』氏が着任致しました。今後の活躍をご期待致します。

(菅原)